

報告 1

中国・綏芬河国際口岸貿易博覽会に出展して

黒龍江省の東南部に位置しロシアと国境を接する都市 綏芬河で第一回の国際貿易博覧会が8月8日から5日間、市内の綏芬河世茂国際商展センターで開かれました。環日本海経済研究所(ERINA)から案内をいただき、私たちも参加することにしました。

綏芬河は省都ハルビンの東、牡丹江からさらに東へ 156km、車で約 2 時間の距離です。人口は約 16 万人、中国では小さな都市ですが、ロシアとの木材を中心とした国際貿易とロシアとの観光で知られています。今年 6 月のハルビン国際経済貿易商談会では、期間中綏芬河市交易団の対外貿易契約額がハルビン市交易団の約2倍に相当する28.4億米ドルに達し、商談会全体の24%を占め、その地理的優位性を発揮しました。また、多い時は一日に 4,000 人から 5,000 人のロシア人観光客が綏芬河を訪れ、買い物や食事を楽しむとのことでした。

そこで開かれた最初の貿易博覧会に県内企業3社が理容バサミ、記念レリーフなどを展示、同じブースで私たちも新潟市の紹介をしました。会場の1階は大勢の来場者で賑わい、その規模で目立っていたのは山東省や河北省、台湾などからの企業でした。台湾から出展した烏龍茶を生産・販売する企業の方の話の聞くと、出展目的はロシアへの販路拡大を図ることで、商談もいくつかできたとのことでした。

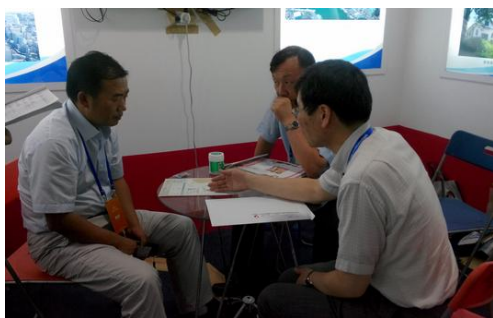
第一回ということもありその運営には課題もあったと思いますが、ロシアに隣接するという地の利を活かした商談会。100年の長きにわたる国境交易の優勢に依り、ロシアや北東アジアの国々との経済貿易をより盛んにすることが博覧会の出発点。中国黒龍江省の辺境が対ロシアでは最前線、物流や通関等様々な諸手続きがさらに改善されていくと綏芬河の優位性はもっと高まる可能性を秘めていると思いました。(近藤)



会場の入り口



市内はロシア語の看板でいっぱい



綏芬河市旅遊局長と意見交換



瀋陽市貿促会の方と意見交換

8月22日浙江省義烏市で（財）自治体国際化協会北京事務所が主催する「第12回日中地域間交流推進セミナー」が開催されました。本セミナーは日中の地域間交流を推進することを目的として、2002年に北京市で開催されて以来、毎年1回、中国各都市で開催されています。日本と中国の様々な分野における地域レベルでの交流を展開するために、両国の地方自治体を始めとする関係者が多様なテーマのもと議論を行います。第12回のテーマは「地域の特性に合った多様な都市の発展と展望」でした。

今回も日本側は在中国の自治体事務所の代表を中心に多くの自治体関係者が参加し、中国側からも多くの地方政府関係者が参加し、セミナーテーマについて闊達な意見交換が行われました。特に、中国側からは様々な交流分野の中でも地域間の経済交流を更に活性化させるために地方政府同士の協力・連携を一層進めるべきとの意見が多く出ました。

セミナー最終日には義烏市にある「世界最大の日用雑貨卸売市場」と称される卸売市場を視察しました。市場の総面積は470万平方メートル、7万軒もの商業ブースがあり、170万種類以上の商品が集積され、視察当日も世界各国のバイヤーが訪れ商談している様子が見えられました。（笠原）



パネルディスカッション



世界最大と言われる日用雑貨の卸売市場



パーティーグッズを専門に取り扱う店舗
（卸売市場内）



市場入口ホールの電光掲示板では商品ごとに取引価格の前週比較増減値が提示されている

報告 3**新潟県・黒龍江省友好県省提携 30 周年記念 新潟県訪問団が訪中**

両県省が友好関係を結んで今年 30 周年を迎えました。泉田知事を団長とする県訪問団一行 33 名が 8 月 21 日から 3 日間の日程で黒龍江省を訪問。滞在中、省政府や省人民代表大会常務委員会（議会に相当）の幹部と会見、30 年を振り返るとともに今後の交流について意見交換を行いました。新潟市からは山口英樹副市長が参加しました。

この度の訪問に合わせ、県は企業ビジネスマッチングや新潟フェアをハルビン市内で開催しました。

（近藤）

詳しくは、こちらをご覧ください。

<http://www.nico.or.jp/dalian/dalianreport1.html#DR132>

（県大連経済事務所が発行する新潟県大連レポート）



泉田知事と孫東生副省长（右）

報告 4**第 9 回延吉・図們江地区国際投資貿易商談会に新潟市出展**

第 9 回延吉・図們江地区国際投資貿易商談会が 8 月 28 日から 30 日まで 3 日間、延辺朝鮮族自治州延吉市の国際コンベンション・芸術センターで開かれました。

今回の商談会は「協力のプラットフォームを構築し、民俗の特色を展示し、地域の協力を強化、ウインウイン関係を図り、相互の共同な発展を促進する」をテーマに、経済貿易展示・商談、投資協力、国際経済貿易フォーラム、民俗旅行文化交流など 4 つの部分で構成され、延辺投資説明会、中韓リスク投資フォーラムなど 20 項目以上の活動が行われました。

新潟市は県、県内企業 4 社とともに出展しました。展示商品は日本向けの食品以外にも皮むきグッズ、土鍋、収納箱、包丁、生活日用品が多数を占め、来場者の関心を集めました。

日本からは鳥取市及び鳥取県内企業 5 社のほか、東京、京都、大阪などの企業も参加しました。今回、台湾は初出展で、台湾の果物、お茶、七彩玉などを展示してました。

今回の商談会は、韓国、日本、ロシア、米国、マレーシア、インドネシアなど 26 カ国家・地域から政府関係者、経済貿易団体、企業など国内外から 8000 人が来場見学しました。室内外の総ブース数は 340 以上、出展企業は 280 社に達しました。食品・生活用品から医療保健、機械設備、IT、エネルギー、林業、観光など幅広い展示内容で多くの来場者を魅了しました。（李）



新潟市・県・県内企業ブース



県内企業が市民に商品を紹介している様子



延辺州 李景浩州長との会見



珲春で開かれた国際物流フォーラム

報告 5

8月31日～9月1日、山東省国際旅遊交易会に出展

8月31日～9月1日、2013山東省国際旅遊交易会が済南市舜耕国際会展中心で開催されました。当交易会は山東省旅遊局及び済南市人民政府の主権により、2001年から始まり、2010年まで10回開催されましたが、その後何らかの事情で中止になり、2013年再び復活しました。

新潟市は済南市と友好交流の覚書を調印した上で、2008年7月の新潟－済南チャーター便で、篠田市長が済南市を訪問した事がきっかけとなり、新潟市の魅力を済南市民にPRするために、2008年から三年連続済南旅遊交易会に出展しました。今回の出展は4回目となり、観光パンフレットの配布や新潟市の映像を放映したほか、交易会の実施運営者である済南市旅遊局の関係者と両市の今後の交流について意見を交換しました。

話によると、往年の交易会では、会期中、前半は業者同士の交流を主とし、最終日だけ一般人に開放しました。しかし、一般来場者と言っても、ほとんどが高齢者でした。また、古紙回収業者の人も会場に入って、出展者が目を離した隙に、パンフレットをすべて古紙として回収するようなことが起こったそうです。今回の交易会では、初日から一般人に開放し、済南市内にある旅行社数社は広いブースを出し、旅行商品価格の割引や景品のくじ引き等を通じて入場者を集め、その場でツアーの申込を受け付けていました。この交易会はただのブース売りから旅行商品売りに変わったと感じました。また、主催者は市外出展者に済南の観光資源を理解してもらうために、会期中、趵突泉、大明湖、五龍潭、千佛山等済南を代表する観光名所を無料開放し、最終日に山東省博物館と章丘百脈泉の視察を実施しました。(鞠)



交易会開幕



新潟市ブース

■■お知らせ■■

「ビジネス支援サービス」をご活用ください。

新潟市の中小企業、団体等が北京市内で経済活動を行うに当たり、様々な支援を行っています。お気軽にお問い合わせください。

詳しくはこちらから

http://city.niigata.org.cn/business_support_service.htm